

西中われら



学校の教育目標：自ら学ぶ 共に生きる 努力一輪 4本柱：授業、挨拶、掃除、合唱

「自分を出し切る」西中生！ 成長の1学期！！

校長 細井 孝治

6月24日～7月16日の約1ヶ月をかけて中体連可茂地区大会が行われました。前半は雨、後半は猛暑に崇られましたが、各部の健闘が光りました。各顧問からは、西中生徒の「さわやかな挨拶」「きびきびとした動き」「かばんやシューズの整理整頓」「チームを元気づけ、勇気を与える声かけ」「最後の最後まであきらめない全力プレー」など、毎日の学校生活や練習で大事にしてきたことが、当たり前のようにきちんと発揮されていてとても立派だったと聞いています。このような姿勢、気構えで臨んだ生徒たちは、勝っても負けてもたくさんの学びや成長があったことと思います。どの部も本当によく頑張りました！

あっと言う間の1学期でした。生徒たちは、『日常生活から自分を出し切る！』をキーワードに、当たり前の日常を自分たちの手で見事に創り上げてきました。当たり前のことを当たり前やり切ることは、口で言うほど簡単なことではありません。ブレない心の強さが必要です。生徒たちは、自分の将来、目標や願いを見据え、今すべきことに精いっぱい自分を出し切っていくことの意味や値打ちを理解しているから、日々の生活や学習を大切にできるのだと思います。そんな西中生を本当に頼もしく思います。先日、美濃加茂市の教育委員訪問がありました。教育委員の皆様からも、たくさんのお褒めの言葉をいただいたので、いくつか紹介をします。

- ・自分をさらけ出せる安心感のある学校。生徒も先生も、それぞれがとても良い表情をしている。
- ・温かみ、メリハリ、集中力のある授業ですばらしい！ペアや全体での話し合いが積極的に行われていて、みんなで授業を創っていることがよく伝わってきた。
- ・生徒の挨拶がとても良い。ただ大きい声を出すのではなく、相手の目を見て挨拶をしたり会釈をしたりと、自信や誇り、臨機応変さを感じる。
- ・掃除がまた素晴らしい！西中の掃除には心がある。「先生やお客さんに見られているから」ではなく、自然と当たり前できている。心を磨く掃除ということで、美濃加茂市の学校の手本となってほしい。

各学年主任の先生にも1学期の成長を尋ねると、うれしそうな顔で次のように話してくれました。

<けやき>

けやき学級が一丸となって、協力して高め合うことを目標に、この1学期取り組んできました。文化の森での「縄文土器づくり」の体験では、一人一人が作品づくりに真剣に、集中して取り組むことができました。けやき前の畑では、毎日生徒が水やりを行い、豊作となっています。

<1年生>

少しの不安と大きな期待を抱いてスタートした中学校生活。緊張した固い表情が柔和な明るい笑顔に変わるのに時間はかかりませんでした。授業では仲間と学び合い、体育大会では仲間と団結して全力を出し切り、すべてが初めてでも、前向きな挑戦が続く1学期でした。

<2年生>

1学期は、体育大会の取組や日常生活の中で、みんなで活動内容を考えながら生活することができました。よく頑張りました！2学期は、いよいよ寺小屋学（総合的な学習）が、本格的に始まります。また、職場体験も予定しています。こうした学習を通して、自分の生き方や“働くこと”について考えを深めていきましょう。

<3年生>

4年ぶりの全校での体育大会。自分たちの競技はもちろん、係の仕事や後輩へのアドバイスなど、『3年生らしさ』をよく発揮しました。また、朝の放送の校歌合唱で、3年生全員で録音したものに変わるなど、生徒会、級長会、委員会が連携して「学校を良くしよう！」という気概をもって活動することができました。